

培養秘錄

序例  
總目

卷一

培養秘錄

卷二  
卷三

培養秘錄

卷四  
卷五

以来此下皆所以此ヲモ筆記レ以テ四十五章  
卷後ニ附ス抑愚者論七十四ニ及ヘリ若夫今ニ  
レハ此ノ書遺サレバ五代傳來ノ家法湮滅スル  
至ルニ先大人ノ遺命ヲ深キ意味アル下ナレ  
レ愚者ガ今朕此書ヲ筆記シテ食物衣類ヲ饒カニ  
スルハ培養法ヲ世ニ遺セルトモ又一ノ機會ナル  
ヘシ抑此書ノ成ル下ハ農事ニ心ヲ盡ス者ノ實ニ  
レテ其實ハ天地ノ化育ヲ賈ケテ世及ノ人民ヲ濟  
救スル一ノ端ナルヘシ然レハ此書ノ最初ヨリ貴  
小使ヲ攬合スルニ素ハシテ極テ汚穢ナル仕方ナ

レ氏悉皆天意ヲ奉リテ造化ノ屈ラサレ所ヲ賢ク  
ナスノ大法ニテ道義ヲ尊ブノ君子敬スヘキノ至  
教ナリ

天保十一庚子年八月初吉

椿園佐藤信淵書

右四十五章ノ外甲乙十字ヲ踏糞培例ハ明治壬申  
之歲既ニ上梓セリ就テ視ルベシ

培養秘録卷五止



官  
版  
物  
理  
階  
梯

上

官  
版  
物  
理  
階  
梯

中

官  
版  
物  
理  
階  
梯

下

七千部限

壬申初冬

岐阜縣  
翻劉

# 物理階梯

文部省

物理階梯

題言

一 國家小學ノ設ケ兒童ニ教メルニ中外ノ歴史  
ヨリ理學數學等ノ各列ニ至ル諸書ヲ以テス  
長ニ西籍ヲ未ダ譯シ我ニ給サレモノ編輯寮  
中諸人一命ニ誠譯ノ業ニ就カレム而シ余モ  
亦四ニ其頁中ニ在リ因テ竊ニ謂クテ方今理  
學書ノ既ニ翻譯ヲ經テ世ニ刊行スルモノ其  
類之レタラズト雖モ或ハ其區分ヲ混シ或ハ



物理全志

宇田川  
準一譯  
物理全志

二

宇田川  
準一譯  
物理全志

三

宇田川  
準一譯  
物理全志

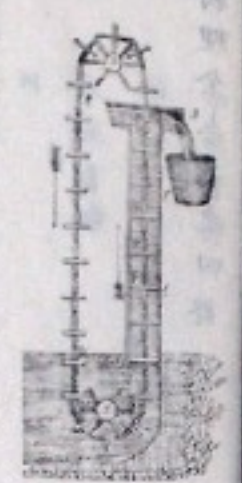
四

宇田川  
準一譯  
物理全志

五

此ノ水ハ自己ノ重力ニ由リ下ニ圓筒更ニ  
 半放スルハカノ處ヨリ下ニ以テ水又ハ  
 下ニ此ノ如ク管内ノ水順次上昇レテ逆ニ管ノ  
 上端ヨリ流出スルニ至ル此圓筒ノ旋轉息マ  
 ルトハ水ヲ流出スルニ止マサルヲ蓋器ニ  
 少距離ニ水ヲ主輪ニ付テ用テ供スル者大凡  
 又鐘筒ノ名ヲ揚水器ヲ云フ器ハ多ク用テ溝  
 渠等ヲ浚渫スルニ爲メ使用スル者多ク即第百

第百十九圖



十九圖ノ如ク(ア)ハ  
 ハ長圓筒ニレテ其  
 下端ハ水中ニ浸入  
 ス(ク)ハ車輪ニレ

(ク)ハ把柄ヲ附レテ旋轉ノ用ニ供シ(エ)ハ水  
 中ニ装置ス(カ)ハ無尾鐘ニレテ(ク)ハ車輪ヲ  
 連絡シ又(ア)ノ筒内ヲ通過レ其筒徑ニ適稱ス  
 ル圓板(イ)等ヲ同距離ニ連串スル者ナリ斯  
 タテ把柄ヲ取リ其車輪ヲ旋轉スレハ則チ水ハ圓  
 板(イ)又爲メ遞次上壓セザレ筒中ニ昇リテ



抽譯英吉利會話篇

初編

抽譯英吉利會話篇

三編

ピン グ エ ン ド エ タイム フ ァー ル ラー  
ping and a time for la-

フ ァー ル ラー  
ngfings.      エ タイム フ ァー ル  
a time for  
ハナシヲスルニモトキガ

ト キン グ エ ン ド エ タイム フ ァー ル  
talking and a time for  
アヲクナヲトズルニモトキガアル

ホルヂン グ ロ ン ス ト キ ュ  
holding ones tongue.

ユー アー ル イ ン ゼ ラ イ ト  
you are in the right.  
アナタゴモットモテゴザラス



魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

一

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

三

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

四上

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

四下

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

五上

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

五中

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

五下

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

六下

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

七

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

八

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

九

魏刻  
牙氏  
初學須知

田中新造譯

十一

明治八年十月

刻 飜  
氏牙  
初學須知

文部省

氏牙初學須知

目錄

卷之一 星學

卷之二 地質學

卷之三 金石學

卷之四 植物學

卷之五 動物學

卷之六 物理學

卷之七 重學

卷之八 化學



家原  
政紀  
著

色圖問答

全



紺	紫	綠	色料	青	赤	黃
香綠色	紫櫻	敬覽色	光日	紫紺	青	綠
黃柑色	紫	青	赤	紫	青	黃
綠	綠	青	黃	青	黃	赤
紅淡	朱	緋	赤	色玫瑰	赤	赤
色卵	黃淡	色櫻	黃	綠櫻香	黃	黃
色水	青淡	縹	青	紺	青	青
色酥	黃火	色鮭	色柑	色葉朽	柑色	柑色
綠淡	綠豆莖	色鸚鵡	綠	色櫻嫩	綠	綠
色藤薄	色藤	色花莖	紫	紫深	紫	紫
色灰	色子丁	色櫻紫	色櫻	色栗	櫻色	櫻色

學校 必用

鹽津貫一郎關  
家原政紀著

# 色圖問答全

西京玉文堂藏



化學要論

一

化學要論

二

化學要論

三

化學要論

四

ア容易ニ之ヲ理解スベシ

第一圖



此試驗ニモ亦以後ノ試驗ニモ事ヲ簡便ニ  
 ナスモノ之ヲ除却セリ  
 鉛ト云ハレ、然レ酸化ノ字  
 醋酸鉛、醋酸鉛ニ古法ニ

醋酸ト鉛ト曾テ其鉄力ニテ  
 抱合ヒレカドモ亞鉛ハ鉛ヨ  
 リテ醋酸ニ強キ引力アルガ  
 ヲハニ亞鉛ハ醋酸ト抱合シ  
 鉛ハ還元レテ遊離ス(註)

(註)醋酸鉛ハ實ニ醋酸酸化

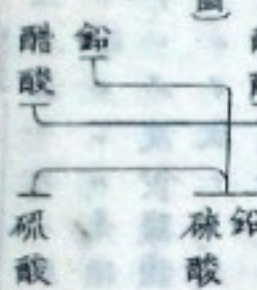
鉛ト云ハレ、然レ酸化ノ字

醋酸鉛、醋酸鉛ニ古法ニ

右ハ、  
 鉛ニ  
 酸化  
 法ニ  
 依リテ

第三試 第二試ニ於テ造レル鉛糖溶液ヲ小試筒  
 ノ三分一ニ填テ之ニ硫酸二三滴ヲ加フレバ白  
 粉沈澱ス是硫酸ト鉛ト抱合セテ生スル所ナリ  
 其始ノハ醋酸ト鉛ト抱合セシ者硫酸之ニ觸レ  
 レバハ鉛ヲ擇ビテ之ニ和スルニ因リ醋酸遊離  
 ナナス 醋酸

第二圖



第四試 硫酸鐵(綠礬)

透明ナル溶液一  
 二錢ヲ大ナル試筒ニ  
 注瀉シテ没食子ノ無

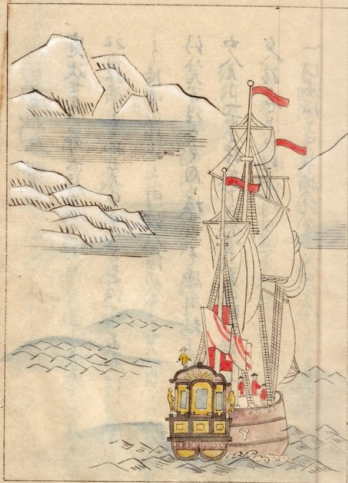


環海異聞

十

環海異聞

十











洋第九号

氣海觀瀾廣義

氣海觀瀾廣義

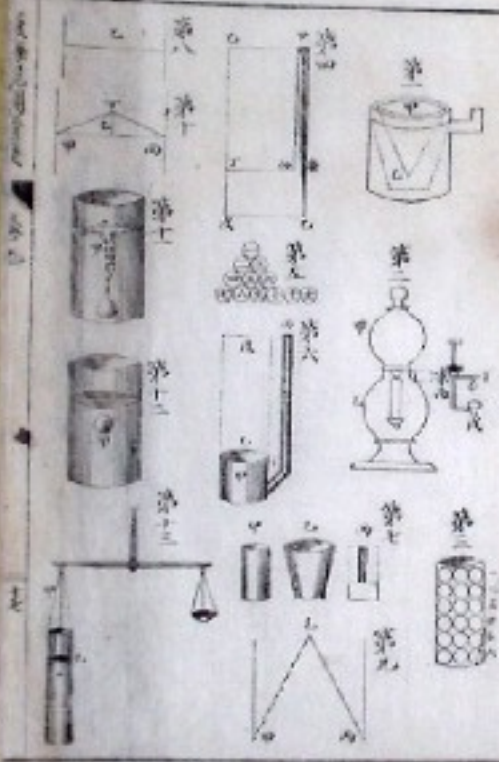
氣海觀瀾廣義

三

氣海觀瀾廣義

五

航海觀瀾義第三篇之圖



航海觀瀾卷九終

化學之理 硝酸ノ注グテ 然レモ此法ハ 神ク判膏  
 スルガ故ニ 其意者ノ 承余ヲ 驚シ 空室ノ 瓶ヲ 擲フ  
 ニ 宜シ 硝石ハ 硫酸ヲ 注リテ 硝酸ヲ 發セシムルハ  
 揮リ 害セザルガ故ニ 其用廣シ 此化ハ 硝石ノ 類及ビ  
 香室ノ 品ヲ 薫スルハ 益 雜物ヲ 夾ムルニ 忌ミテ  
 レテ 清潔ニ スル者ニ 不ナリ 又 通常行用ノ 醋ヲ 火  
 ニ 注テハ 尿酸ト 水素ヲ 生シテ 酸素ヲ 生セザルガ  
 故ニ 血膏ヲ 治スルノ 外 更ニ 用テキナリ



小拭ふバ泥と塗りより方先ニ沸く事一火氣と  
 吸込むこと速けもバふり臨の粗き鉄瓶と底ま  
 と祭まより銅の樂鐘として  
 湯と沸さば鉄瓶の方先ニ沸  
 く事一世間の炊婢何れと奉  
 公とよく勤うとも鍋釜の死  
 と白金の如く小替く事さらん主人のよあふ  
 却て薪の不儉約あり  
 前ふいへう如く何物おても温氣と受れにその



窓と増をやくみの理小基き寒暖の加減と測ら  
 んとして年来西洋小て工夫と運らせ一ヶ彼國の  
 千七百二十年即ち我享保五年の項和蘭小於て  
 ふられんといふといふくもトめていた道具  
 と作りぬれと寒暖計と名く進米ハ日本小ても  
 其法ニ效くぬれと製一唐物屋ニ賣物ゆりその  
 製法硝子の毛小莖と附てこそ小承銀をいれ具  
 昇降小て寒暖の加減と測るあり即ち温氣増セ



長崎土産

金





扇映夕照

高島

喜全

夕日夕照の光のゆれ

うきめまきしむ

きんぎょのさ

きんぎょのさ



蘭館





西字彙蒙

四

ニテノトモ ノチハ キメヌキ カスリカサ

*Boctoemo notita niwaki kaiaikama*

ハンガ、ヤ コヂキ、 イエキ、 ハシカ、  
*Mamgakara kodikino yimo notakoro*

ニチ、カ、 モリ、  
*Misotamo makogura moemaru kessakubi*

ソダク、  
*Sodag in thady tempo.*

十二 藝 節 装 填 法

1. laatr = 1 gader.

装 填 二 銃

一 藝 節 動作

2. spant = (de) pan.

開 ヲ 二 薬 池

3. moent = (de) patroon.

抹 ヲ 二 銃 包

4. spant = (de) patroon.

破 開 ヲ 二 銃 包

5. kuit sp = (de) pan.

火 薬 二 薬 池

6. sluit = (de) pan.

蓋 二 二 薬 池

7. 4 gader = links.

銃 二 左 轉

一 二 二 二 二



頭書  
大全

世界國盡

亞細亞洲

頭書  
大全

世界國盡

阿非利加洲

頭書  
大全

世界國盡

歐羅巴洲

頭書  
大全

世界國盡

北亞米利加洲

頭書  
大全

世界國盡

附錄

六

四

三

二

英蘭と交して、英の  
士官と雇ひ、武備を  
整うよ一きり



一 次し、二、三、と得奉  
 可蒙古より改行し  
 北干平百、年、以、為  
 政府、不、及、改

○ 荒火屋へ大國ふ  
 せど、砂、浪、とて、流  
 る、く、黄、き、砂、原、の  
 ま、ま、且、氣、候、ハ、熱、く  
 西、ハ、少、く、住、ム、ニ、至  
 一、から、ゴ、地、キ、リ  
 これ、ども、平、地、ム、ハ  
 早、木、ハ、生、長、を、速  
 物、ハ、繁、殖、を、育、び、び  
 の、類、カ、一、歌、類、ホ、ハ

富紀が世を以  
 つる  
 道南の八海原  
 西の、砂、澄、廣  
 荒火屋國南の、